



中学生が自衛隊の職場を体験

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月10日（水）と11日（木）の2日間、浜松市立神久呂中学校の職場体験学習を支援した。

同校2年の男子生徒4人が参加し、初日は航空自衛隊静岡基地（焼津市）を訪れた。自衛隊の役割などを説明した後、T-7初等練習機を見学し、航空機の整備員から機体と整備作業について説明を聞いた。また、離着陸や飛行の安全を確保する気象隊や管制隊、消防小隊の仕事内容についても説明があり、消防小隊で実際に防火服を試着した生徒たちは、その暑さと動きにくさを実感していた。

2日目は、陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）を訪ね、災害派遣の際に使用される「人命救助システム」で、瓦礫の中にいる要救助者をカメラや音などで探し出す捜索活動を模擬体験したほか、軽装甲機動車の体験搭乗などを行った。

生徒からは「自衛隊にはいろいろな仕事があることを知った。気象予報を自衛隊独自でやっているのはびっくりした」「災害現場での捜索活動の難しさを感じた」といった感想が聞かれた。静岡地本は、これからも職場体験学習を積極的に支援するとともに、さまざまな場面で広報活動を行い、自衛隊への正しい理解促進に努めていく。



「大人になったら運転したい」はたらく車大集合

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月20日（土）と21日（日）、エスバルスドリームプラザ（静岡市）で行われた「静岡はたらくクルマ展2018」で自衛隊車両を展示した。

会場には、隊員の輸送などを行う自衛隊の高機能車のほか、パトカーや消防車、テレビ局の中継車、橋梁点検車など、さまざまな場所で活躍する「はたらく車」が展示された。

高機能車の深い緑色の車体と大きなタイヤはひときり目立ち、来場した家族連れに大人気で、ミニ迷彩服を試着した子供たちが操縦席に座ってハンドルを握ったり、広い後部座席に家族全員で乗り込み写真を撮るなどして楽しんでいました。

普段接する機会のない自衛隊車両を間近で見たり子供たちは「タイヤがぼくの身長と同じくらい大きい」「大人になったらみんなを運べる車を運転してみたい」と笑顔で話していた。

静岡地本は、今後も各地のイベントに参加してPRを行い、自衛隊を身近に感じてもらえるよう広報活動に努めていく。



金岡中学校で自衛隊を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月25日（木）、沼津市立金岡中学校において自衛隊に関する職業講話を実施した。

この講話は、同校から市を通して依頼があったものの、全校生徒168人を対象に、自衛隊や消防、地元企業から招かれた10人の講師が、それぞれの仕事の内容ややりがい、男女共同参画への取り組みなどについてわかりやすく説明した。

講話は、生徒が約15人ずつのグループに分かれ、興味のある職業の教室を訪れる形式で行われた。静岡地本の沼津地域事務所長・羽中田大作2等陸尉による自衛隊の講話では、生徒が「普段の仕事で心がけていること」や「音楽隊の訓練内容」「今までの仕事で一番苦しかったこと」など、普段は聞けないさまざまな質問を所長に投げかけていた。熱心にメモを取る姿からは、自衛隊に対する関心の高さがうかがえた。

静岡地本は引き続き、将来を担う若者に対して自衛隊の活動を積極的に広報し、自衛官を職業選択肢のひとつとして考えてもらえるよう、学校と連携して講話などを実施していく。

